D 14

身体に対するイメージ及び満足度と被服の表現

共立女大家政　○杉田洋子　小林茂雄

目的　人は、自分自身に対して何らかの意味づけを行っている。その中で身体に対する意味づけは、身体に密着している被服と密接な関係にあるはずである。したがって、自己の自分自身に対するイメージ及び満足の度合いは、被服の選択行動に影響を及ぼしていると考えられる。そこで、本研究では、身体に対するイメージ及び満足度と被服行動との関連について、検討を行った。

方法　女子学生201 名を対象として、身体に対するイメージ及び満足度と被服の表現に関するアンケート調査を行った。調査内容は、被服に関連が深いと思われる身体20部位に対するイメージ及び満足度(3-5段階評定)、ボディ・サイズ(6部位の現実値、理想値)、被服の表現(12 部分57種)に対する着用の程度(5段階評定)、被服行動に関する態度24項目(5段階評定)である。調査は、1988年7 月6 日と7 月8 日の2 日間に集合調査法によって実施した。有効回答数は192 名(95.5%)だった。

結果　身体の太さの部位では、バストを除く6 部位とも太い方、長さの部位では、首、腕、身長は短く低いこと、胴は長いことが不満であることなどがわかった。現実サイズと理想サイズの相関が強いのは、体重、ウエスト、身長の順だった。身体各部位とその部位に関連する被服の表現は、身体に対する満足の度合いによって着用頻度に差のあることがわかった。更に被服行動に関する態度を因子分析した結果、女らしさ、ゆとり重視、ボディ強調の3 因子が抽出された。女らしさの因子の因子得点上下位群(±1.0 以上)と身体満足度の関係を見ると、ウエストまわりの関連が最も強く、次に身長、肩幅の順だった。